

NPO法人

KSKP

ヒューリーズ

34

一〇一年 明けましておめでとうございます。

理事長 中山 翁江

昨年は信じられないほどの週末に障害のある人もない人も不安だらけの一年だったと思います。

特に障害者にとってはガッカリな「コースが飛び込んできました。

廃案になつていた障害者自立支援法が可決されたのです。

前のまま手をつけておられないとかで、今度のこの決定は信じられません。

平成二十四年に新たに見直すとか言われてますが、本当に見直してわかるのかわかりません。

今一度「私たちのことを決めるのに、私たち抜きで決めないと」と声を大にしていかねばなりません。

今後どのように動いていくのが見隔けましょう。

この年は、安心して暮らせる年になりますように祈るしかありませんが、私にとつて最初の回立を書こうと思いました。

やつ十四年前になるのですが、盲導犬との出会いで、親から犬に手引きが代わりました。

後で聞いたのですが、明治生まれの親にとっては情けないことに、「親より犬を選んだ。私は犬より頼りないのか」と泣いていたそうです。親は年老いているから元気なつかしくつまでも面倒か仕じてはと思つて、一人でいや一人と「つむぢやん」と歩く道を選んだのです。

中止ひとつは私に裏切られたよハレを感じたのでしょひね。

時に血立は親を泣かせぬよもあんなと思つました。

犬に負けたと思つて居る母と、我が家に初めてきた盲導犬、母は情けなさう」「お前が連れて歩くのか。お前がね…」

私が公民館に行く時、つんわやんが後ろを振り返つて来た道を戻りました。「どうも心配で後をつけていたみたいで。始め、建物の影で隠れていた母を見つけて「おはあちやん、みつけしゃん」とばかりして帰る母を思つて、その時は言えなかつたけれど、「ダメハね、お母さん。私は大丈夫だよ、ありがとうね。」

母があきらめたのは、初めての盲導犬と母の誕生日が偶然一緒だったから。「この犬が私の代わりになるのが、めぐり合わせやつてんやなあ。」と聞いて優しく頭をなでつました。

この母が逝つてからこの二度で一十年になります。

私の新しい一步を思つて少し、心新たに今年も進んで行くと思つたおもづ。

「J-moの事業所シヨーブ・セシヨン」

「ソーシャルファームが拓く人権の世纪」

(公的サポートと新たな寄付・ボランティアの可能性を求めて)

報告と案内

J-mo副理事長 坂上 正司

「J-mo」は五箇の完成に向かって横浜市戸塚区布東の町の福祉「J-mo」、トライアルが内に「COM.s.i.」(J-mo)と建物の建築が進んでいますが、それを主として運営するNPO法人「J-moの事業所」が今年一月二十日に認可されました。私も「J-mo」年から設立準備に闘わり、副代表理事をさせてもらっています。

「J-moの事業所」はソーシャル・ファーム(Social Firm)つまり、障害者あぬこは労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、また支援付き雇用の機会を提供するJ-moと無縫をおいたJ-moソーシャル・ファームを通じて開催される四回のシヨーブ・セシヨン(連続対話集会)を企画しました。

全体の流れとしては、第一回「課題ヒントのソーシャル・ファーム」(九月十一日(土))で問題提起、第二回「障害者の自立支援ヒント・ファーム」(十一月六日(土))で課題の整理、第三回「仕事の新しい形」(10月11日(土))で提言、第四回「ソーシャル・ファームは広がる」(10月18日(土))で結論と展望を話し合つてきました。

そして、第一回は九月十一日(土)で終了しました。

一、「釜ヶ崎の「J-moが夜回つ」実践の足跡と経験」では、横浜市民文化アカデミック大阪司教区J-moの里館長の莊保共子(こよひまとも)と、野宿生活者との関係を通して、近隣嫌悪、差別の地域的・構造的・階層的な問題を次々と提起していくいただき、あまりの問題の重さに逃げ出しだしてしまった。ソーシャル・ファームの根幹につか、地域福祉を突き詰めたときに行き着く先だと感じました。

二、「ソーシャル・ファームの「日本的意義」では、日本ソーシャル・インクルージョン推進会議代表の巣谷茂(すみたにしむか)さんによるソーシャル・ファームの先進事例をたくさん紹介していただきました。たがいの力のかかるNPOはより広がるやへつかなソーシャル・インクルージョン的なものや、少し方向性の違う活動も少なからずありました

三、「労働と福祉の谷間を埋める社会的雇用に取り組む」では、財団法人箕面市障害者事業団事務局長の栗原久(くりはらひろせ)さんによる、事業団の実践から見た合理的な配慮や差別禁止について、また一方で、箕面市長代理として参加されてきた内閣府「障害者制度改革推進会議総合福祉部会」での議論の内容や方向性についてお話をいただきました。栗原さんは「障害者情報ワープ・コース」の時代から本紙を読んでいたたいて、小規模作業所の置かれている現状もよく存じていました。

本紙発行時点では既に第一回、第二回を終了していましたが、実は

【第一回】は私が登場しました(ぱりでいた)。小規模作業所の置かれている課題を洗いつらじ話しました(はざけじた)。第四回も充実した内容で準備してますので是非参加していただけ。

【第一回】『課題としてのコーナー』は広がる

【第四回】『コーナー』は広がる

一、地域の中で支えあう生き方

NPO法人かなで施設

福住 美寿さん

一、「ワークセッション」「寄せとボーナスティア」

有限会社 ピラグイシヨーロッパ日本代表 佐野 章一さん

近畿労働金庫地域共生室長 法橋 聰さん

特定非営利活動法人NPO政策研究所理事

相川 康子さん

【第二回】『障害者の自立支援ヒコーナー』

九月十一日(土) (済)

(済)

一、「ハーフドーム」

ベスト障害者自立支援法を展望する

一、「カブハシヌエーツ」世のほの屋

社会福祉法人まごつの福祉会代表 西澤 心さん

【第三回】『仕事の新しい形』

一〇一一年一月八日(土)(済)

(済)

一、「ハーフセシション」障害者就労の現場

兵庫市障害者就業・生活支援センター「あいむ」
都留文科大学教授
NPO法人「」の事業所

一、「イタツア」の排除との闘いと社会的企業における

都留文科大学教授

田中 夏子さん

一、「ハート・カーネーション」なぐる市場

医療法人正光会御荘病院院長 長野 敏宏さん
(聞さず)関西学院大学人間福祉学部特任助教

川本 健太郎さん

三、「社会」つながりの動き
(聞き手) 甲南女子大学
社会福祉法人一麦会 麦の郷理事 伊藤 静美さん
牧里 毎治さん

四、全体のまとめ

関西学院大学教授

牧里 每治さん

日時 一〇一一年二月十九日(土)(十一時～十七時) 一〇〇分
会場 「ひづれ」おー・二階ホール
兵庫市堺布東の町十一-七

参加申し込み FAX 〇七二九七一八七一八三三〇

E-mail comsi.forum@gmail.com

参加費 資料代込み 1000円(御用意下さい)

『差別って何?』

障害者情報クリップ代表 土井 克哉

障害者情報クリップでは、昨年の八月と十月の二回、障害者差別についての「ワークショップ」を開きました。

差別されてしまうのではなくて、いらない障害者がまだまだ多いので私は障害者差別に気付いてくれる障害者を増やして行きたい」と思い活動しています。

障害者情報クリップでは、差別の「現状」を障害者に知りし欲しいと思つてあります。あるいは障害当事者が自分たちの受けた、「あらわの差別」について自分の周りの障害者も、分かつて欲しこと思つてワークショップを開きました。

【第1回】アメリカから始まった自立生活の流れや、国連での動きから、日本の姿勢やこれから行つて欲しい障害者政策のあり方、差別とは何か、なぜ差別禁止条例が必要なのか等を講師に話してもういました。次に、実際にありそうな差別事例を私たちが演じてみて、差別に対する理解を深めてみました。差別事例を参加者全体で共有するためにはグループワークを行いました。

【第2回】神戸の『ワシングリンク』という自立生活センターから講師をお招きし、第一回のグループワークで出た差別事例の分類分けの方法を教えてもらいました。そこから私たちの声をどのようにして

市や県に持つて、障害者差別禁止条例作りに結びつかぬのかをお聞きしました。その後、実際に分類分けを参加者で、してもらいました。

私が受けた差別事例を挙げてみましょう。

自立する時、家を借りたこと思つたのですが、私が障害者なんに借りるかじが出来ませんでした。健常者ならすんなり借りられただろうと思こます。借りられたとしても火事を出さないかと言われました。健常者も障害者の方も火事には十分気をつかおしよう。火事を出す・出さないに障害の有無に関係はありません。

入ったてお店に車椅子を入れなかつたことが回数もあります。それを、自然としあわせられて、始めからそんなお店には行かないだ。それが、自然としあわせられて、始めからそんなお店には行かない。それが、自然としあわせられて、始めからそんなお店には行かない。自分がいるのが怖いです。

それと、私がヘルパーさんと外出する時、駅に行くと駅員は必ずと話つて良いほどの話をしてはなくヘルパーさんに話をします。

私はしゃべれませんので他人には、何も出来ないと思われます。それが私にどうせ、なにより辛いです。

私にとっては車椅子に乗つて歩くことはよろしくやべれなくて、意思の疎通が出来ない」とのが辛いところが一番嫌です。

私たち障害者情報クリップは、兵庫県の障害者団体が集まつてこの会Hーー(兵庫県自立生活センター協議会)という団体とともに活動しています。Hーーでは、他府県の障害者権利条例作りの関係者を招き、条例作りを行ひ聞くで何で困つて、それをどのように突破していくか

などの、体験をお聞きしました。それを元に兵庫県の障害者差別禁止条例作りに役立てています。

国連で障害者差別禁止条約についての議論がなされていく事を、「存知でしょうか？」

障害者差別禁止条約とは、「どのよのな障害があつてもごかなふ差別もしてはこな」という国際的な約束です。

国は国連すでに議決されたこの条約を守る法律を作った上で条

約に批准しないといふません。

我が日本では国連で採択された直後に批准しようとした。私たち障害当事者の意見も聞かず勝手に、今ある国内法をも変えない形のまま、ついに私たちと歩調の合った障害者団体で、团结を取り入れるまで批准しないでトセヒ、現政権までは批准を止めさせたのです。

来年度の私たち障害者情報ワーグンでは、障害者だけではなく多くの人に、障害者差別に関心を持つていただきたい、「ワークショップを開催したい」と思っています。

後日、詳細をお知りいただきの上、ご参加下さい。

私と一緒に障害者差別をなくす
運動に手助けしてくれませんか？

「何も差別のない地域社会にしませんか?」



新商品“HEMP”とは…

「ハンドル」とはアサ科の一年草「大麻(おおあさ)」のことです。主に衣服などが作られています。

アクセサリーを作り時には、金属の工具を使わずに作るアーティザンの世界が広がります。組み紐やミサンガとよく似ていますが少し違う、特別な道具は要らぬ紐の端をゼロハンドルで貼つたりして手軽に作れるのが魅力です。三種類の編み方を覚えておこうと作品が出来、ユーズを織り込む」といっておられます。

ネックレス、指輪、キーホルダーも携帯ストラップ等、色々な商品を作りたいと思います。

自分のだけのアレンジの物を、
作りませんか？



今年もがんばります。

神塚市議会議員 井上さよし

昨年は、領海での事件、隣国との砲撃戦、政情の不安定や政治への不満など、国内外で様々な問題が起りました。

また、医療費三十四兆円、介護保険は七兆円を越えたと言われ、超高齢社会(六十五才以上が「十一%を超えた社会)に突入した日本は、大変な時代を迎えようとしています。

私も市会議員になつて、早十一・二年が過ぎようとしていますが、我々障害者のとりまく状況も、の間に大きく変わりました。支援費制度、障害者自立支援法、補助犬法、発達障害者支援法、交通バリアフリー法など、新しい法律も次々とされました。

確かに、十年前に比べれば、街ではエレベーターのボタンや、段差などを越える時、つまづいたり手伝ってくれる人々が増えたように思いますが。

しかし、社会の中での障害者への差別や偏見や制限がなくなりたわけではありません。

住宅や就労、介護や外出の保障など、障害があつてもひとりの人間として、堂々と生きてゆくために、必要な環境や制度は、まだまだ不充分です。

身体だけではなく、知的、精神、発達など、実際には見えないところに持つた人々の理解と配慮も大きな課題です。

議会や委員会、行政との話し合いの中で、多くの市民から寄せられた声をなんとか届け、解決しようと努力をしてきましたが、まだまだやり残しがあります。これからも、車いすから市民の声を届けねば、がんばらなければなりません」と、「一層感じています」。

本年もがんばりますとお願い致します。

*** 【編集からひとこと】

「私たちのことを私たち抜きで決めなさい」と訴えてきたにもかかわらず、一〇一〇年十一月十八日障害者自立支援法改正案は可決されました。

障害者福祉サービスの利用者負担軽減や地域格差の解消、応益負担から応能負担への移行、障害の範囲の見直しなど、山積する課題がほとんどの議論されないままの可決に、障害当事者として怒りと不安を感じさせん。

平成二十五年八月には障害者自立支援法に代わる新法が施行される予定ですが、今度は、障害者の意見を踏まえた施行となるよう、国民一人一人が厳しく監視の目をむいていきたいと思います。

～救急救命講習を受講して～

「アイールセンター職員 木澤 たえ子」

平成二十二年六月九日に宝塚福祉センターにて、赤十字救急法基礎講習(自動体外式除細動器AEDを含む)が開催され、私も他の方々と一緒に受講させていただきました。

午前十時から途中お昼休憩を含む十五時三十分までの講習で、テキストにそつての講義で、心肺蘇生法(気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ(胸骨圧迫))の方法や、AEDを使った除細動などといった一次救命処置の手順を、そして午後からは、一人ずつのグループに分かれ実際に練習用の人形使って心肺蘇生法や、AEDの実技講習。

そして終了後、簡単なペーパーテストがあり合格すると、はれて赤十字救急基礎講習修了の認定書がいただけます。

気道確保や人工呼吸など、人がしているのを見ている時は、簡単そうなのですが、実際に自分でやってみると、なかなかうまくいかず、「どうつかむまでは、心臓マッサージも心臓の真上に力を加える」とがなかなかできず、人形の胸骨がおれた印の赤ランプが何回も点灯し汗だくになりました。

悪戦苦闘のすえ受けた実技と筆記のテストですが、全員が無事合格することができ、とても嬉しかったです。

最近AEDの入った箱は、駅や会館など、あちこちで見かけることが多くなりましたが、中身を見たりとも、やがて触つたりともあります。

しかし、実際に使用してみると、音声でガイドをして貰えるので思ったよりは、安心して使えました。

でも実際の場面で「それだけ落ち着いて、使用する」ことができるか、「救急隊に引き渡すまでに心肺停止から五分以内に除細動を行えば、救命率は特に高く、心停止した傷病者の救命が期待されるので、心肺蘇生法と合わせて行う。また、倒れている人をみつけたら、勇気を持つて行動を起しあうことも大事ですが、救助者自身の安全も確保したうえで行い、また一人でも多くのではなく、近くに人がいれば、協力をもとめ、行うことともとても大事だと改めて思いました。

十年前に一度受講したことがありましたが、忘れていた」とも人々あり、今回新しく始めたAEDを含む講習で、とても有意義な時間を過ごすことができよかったです。

心臓マッサージ風景



『//』「ケーシング支援」について

アイエルセフター障害者スタッフ 古谷 かおり

『//』「ケーシング支援」とは、入院中に介助の仕方など自分自身で決める事なく、障害者が普段の生活で利用していく事業所から、ヘルパー派遣してもらう制度だが、看護師への伝達役で直接手出しあしてもうれない。特に家族に頼めないものにとつては、普段から動きをしていたからだ。

腰に痛みを感じ始めてから、手術を受けることになった大阪赤十字病院付属大手前整肢学園(知り合ひからの紹介)に出会うまでの一年間ほど、宝塚市や周辺の大きな病院三カ所を、すがる思いで巡ったが、腰椎すべり症」という病名は出ていたものの、治す方法は何もないように診断されたばかりだった。

大手前整肢学園では、全国から障害児が手術やリハビリを受けに来ている。大人の障害者の受け入れは特別である。私は脊髄専門の医師から「治す方法は手術しかないが、術後は絶対安静が必要」と言われ、それが迷いに迷う大きな原因になつた。手術に関しては個人的に体験した人達に話を聞いてみたり、術後に必要なことに関しては各機関に相談をした。

田塚市で初めて『//』「ケーシング支援」を利用させてもらひたのは、1月になり、手術を取扱い、二週間の入院の後は、療養やリハビリを含め、付属の整肢学園で過ごさせてもらひた1月になり、だんだんと準備が整つた。そして、やっとの1月で手術の決心がついたのは、患者の立場で話を聞いたり、解りやすくお詫び下される医師や看護師さんを信頼できたからである。

『//』は、手術を取扱い、二週間の入院の後は、療養やリハビリを含め、付属の整肢学園で過ごさせてもらひた1月になり、だんだんと準備が整つた。そして、やっとの1月で手術の決心がついたのは、患者の立場で話を聞いたり、解りやすくお詫び下される医師や看護師さんを信頼できたからである。

勿論、医療的なこと・専門的なことは看護師の仕事だが、基本的に「完全看護」であったとしても、看護師の手が足りないのは事実で、患者の方も何かしら変に気を遣つてしまつて、ストレスを溜めてしまつることもあることにある。私自身は幸いにも手術後何日間のうちに、車椅子に座れるようになり、パンツを自分で脱げられたり、变成了してしまつた。病院滞在期間三週間と七カ月間、トイレに行きたつのに遠慮をしてしまつたり、パンツのセシートをするのは五分もかかるなどの延々と待たされたりするのもあつた。外出や外泊をしていても、基本的に介助が制度では利用できない、「カマン」も多かつた。

それについてと解消するためで、『//』「ケーシング支援」とは別に、入院時にどの障害者も不安やストレスを軽減できるよう、心強い介助の制度がほし。ただし、たくさんの人、それを形での「協力」で、元気で帰つていられた」としても感謝している。

※元々は、パリパリケーション支援事業は聴覚障害者のパリパリケーションの支援を手話通訳や要約筆記等で行なう事業として位置付けられている。

花鳥園へ行つてきました。

新人障害者ペタシ

九月四日(土)アイエルセンターのみんなや色々な人たちが、神戸の花鳥園へ行つてきました。

☆

古谷さん、遠慮ねあどひつゝんじんじゅうまわ。

長じ闘病生活」苦渋せられた」と題こます。☆

良じ経験? じほづばほせんがお疲れ様でした。

アイエルの皆さんは、古谷さんの優しいお顔をみりねるのを、直長へじて、待ち望んでござました。

「おかげさへ~。」

無理なさいなよみの」「マイペースで、おしゃましょい

〔アイエル一回〕

車椅子のみんなが、乗る時一両だけ離して次の駅で、電車を合流させると、そして前の車両が①したり、もつと一両止まつて、すりして又②。その繰り返し。やつしたらみんなが、おひへり、おひたり、優しい気持ちで、行動できぬ、やれやつ。

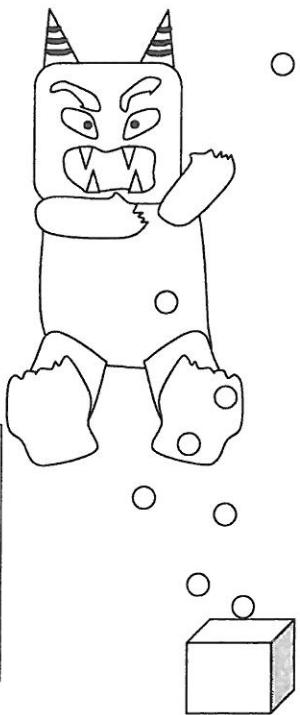
花鳥園は、段差もなかつたよー(と思う)

『花が、じゅうぱうあつて、鳥か、めつねやつめした。可愛つ…』

とにかくみんなで、行ったのが、楽しかつた。

カメラ持つて行つて大正解…。

又、「みんなで色んなとこにこもたつくな~。」



ペソネーム キヨロコ

『秋まつり』

アイトルセンター センター長 石川 博之

昨年は、八日間という短い期間で二回、アイトルセンターから離れて出店が続き、連續して出店したのは初めてでしたが、良い経験を得られました。

もう参加したのは、「ハコ//ハサウエー」で、わいわいハコ//ハサウエー秋まつりでした。

ハコ//ハサウエー都人福祉センターと大型児童センターの複合施設で、普段は子供たちの笑い声で満ちあふれている場所ですが、今回ばかりは静かにぎこちない直ぐの交渉で満たされました。

次に、イオングループの「サトウマート」でした。

この会は、イオングループの全面的バックアップを得て、障害者施設などからされた授産品を県内のジャスコ店舗で販売する「障害者授産品販売ショップ」で、パンなどの食料品や、花、手作りのアクセサリーなど、私たち障害者が作りたいと考えた、自慢の商品が所狭しと並べられた他の作業所などと一緒に会を盛り上げる事ができました。

次に参加したのは長尾の集いで、宝塚市の「長尾地区まちづくり協議会」の主催で開催され、一年前から引き続きの参加です。この会は活気のある楽しげな祭りで、いつもお世話になつて居る福祉部会のみなさんや、近隣の障害者団体「虹の家」さん達も参加され、私達も楽しめて居たのもしました。

最後に、宝塚身体障害者補助犬シンポジウム&障害者週間記念事業に参加しました。

この事業は、市や障害者団体、毎日新聞社などについての実行委員会が主催で「なくねり心の段差」をテーマに、補助犬への理解を深め、障害者の社会参加促進事業を目的に開かれ、いずれも快晴で、最後まで気持ちよく参加できました。

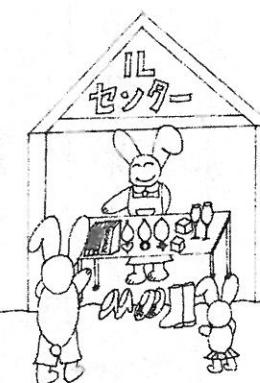
秋は一年で一番出店する機会が多く、このためこれまで準備してきました。授産品の開発や展示方法、バザー品の収集や作成など、ボランティアさんや地域の方々に協力いただき、当日を迎えることが出来ました。

特に授産品の開発には、みんなが関われる物を作るといつと何度も会議を重ね、エクセル(シート)を使った手作りの小物を作りあげました。

この秋行われた一連のイベントは、このエクセルの発表の場となりました。

「またえいこせまおもかで、今後も良い物を作り上げていっために頑張つてもらいたい」と思いました。

これからも地域で活動していく者として、地域の皆様に必要とするのアイトルセンターとして頑張つて行きたと感じました。



《昨年からアイドルセンターの一員になりました》

いつも 優しく 頼りになる。

三輪 恒暉 もへい

生年卯日は昭和三十九年三月三十日

血液型はO型です。いつもみんなのいいお願いをします。

私の趣味は野球観戦、魚釣りです。

今、熱中しているのが「ボッチャ」という競技です。

この競技は「十年前」ヨーロッパで広まり重複の障害のある方も、

参加できる楽しいスポーツです。

そして、ヨーロッパの競技で、障害のある方も健常者の方も玉

来ます。

私が熱中するわけは、僅差の勝負にな

る」と「ペースではかり、すこし緊張感があるからです。

また、興味がある人はボッチャのホ

ームページを見ていただく。

練習日は第十一土曜日と第三十一土曜日

にあります。

場所：宇都宮市安倉小で練習しています。
学校の隣の養護学校の体育館です。

【ボッチャの試合風景】



笑顔の、とてもかわいがな

河合 恵美さんです。

私は、地元の日本で育ち、長尾南小学校、長尾中学校、県立播磨養護学校高等部を卒業して、一度は、就職したものの、上手くいかず一年足らずでやめてしまい、希望の家ワーカセセンターで、十三年間通りでいました。

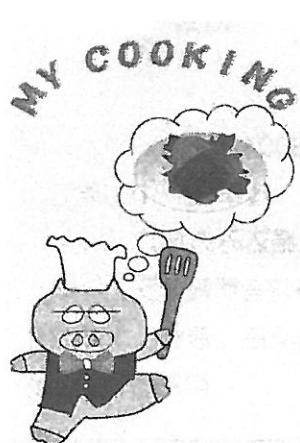
私の趣味は、音楽を聴くことと、トランジットを眺めることがあります。海

外(韓国、台湾)のドラマも、好きですか。

夢は、私が描いたマイペストリードームで、皆さんと一緒に笑顔を広げたいと思

っています。

今、料理टマトソース、今
年から、本格的にヘルパーを
んと一緒に、作っています。レ
シピを書いたホームページ一冊用
り、レシピ本(里芋)もしました。



西公民館の自動販売機を「利用」下さい

宝塚市立西公民館(阪急今津線小林駅から徒歩2分)の四階・レクルームの前に設置されている大塚製薬の自動販売機は、管理のジャパン・ビバレッジ(田口マシテ)の「協力により収益の一部が障害者情報クラブの運営費として一九九四年四月より寄付されています。しかし、四階のわりにいい場所に置かれているため、なかなか売り上げがあがらず、収益が伸び悩んでいます。みなさん、西公民館をご利用の折には、是非、クリン・ビバレッジの自動販売機を「利用」いただき、障害者情報クラブを応援して下さい。

☆ たくさんのバザー用品の御提供、「寄付をいただき、有り難う」ございました。

多くの皆様より数々のバザー用品をいただき、昨年秋の各種イベントでバザー販売させていただきました。

また、左記の皆様より、貴重な「寄付をいただきました。

・阪神北県民局 職員の皆様

・雲雀丘学園 小学校の皆様

今後の活動資金として、有効に活かしてまいります。

バザー販売や授産品作製にあたつてお力添えをいただきましたボランティアのみなさまにも、厚く御礼申しあげます。

NPO法人とことこニュース

編集人 NPO法人とことこ

所在地 〒665-0882

兵庫県宝塚市山本南2-6-5

NPO法人とことこ障害者情報クラブILセンター

TEL & FAX 0797-82-2233

E-MAIL sjcil@hotmail.co.jp

【アイエルセンターへのご寄付の方は】

池田銀行 山本支店 普通 28004

特定非営利活動法人 とことこ 理事長 中山君江

【障害者情報クラブへのご寄付、会費の振込みの方】

郵便口座 14360-43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店 普通 3566211

障害者情報クラブ